

資料・統計

2006年悪性疾患入院患者統計

Statistics of Inpatients with Malignancy in 2006

新潟県立がんセンター新潟病院

情報調査部 病歴室

2006年の悪性疾患入院患者統計について報告する。

悪性疾患入院患者の基礎資料 (表1)

2006年の病床稼働率は91.9%と前年(92.6%)より0.7ポイント低下したが、平均在院日数は14.7日と前年(15.0日)より0.3日短縮しており、結果として総入院患者延数は11,413で、前年(11,217)より196人(1.7%)増加した。このうち悪性疾患患者の比率は年々増加しており、悪性疾患登録患者実数は2,615(前年比+109)、悪性疾患登録疾患数は2,895(同+115)で、いずれも過去最多となった。

悪性新生物疾患別数の推移 (表2)

表2に悪性新生物の新規登録患者数の年次推移を部位別に示した。前年に比べ増加が目立ったのは胃572(+65)、結腸・直腸401(+45)、肺636(+40)、子宮体部95(+20)、膀胱185(+33)などで、逆に前立腺217(-27)は減少していた。その他の部位には大きな変動は無かった。

全疾患に占める悪性新生物比率の推移 (表3・4)

全入院患者に対する悪性疾患患者の割合は年々増加しており、疾患別患者実数ベース(表3)では68.3%(前年66.47%)、入院患者延数ベース(表4)では82.51%(前年81.34%)といずれも過去最高であった。さらに疾患別平均在院日数を考慮し、実際の病床利用上でのがん患者割合(がん専門病床割合)を見ると、84.52%(前年83.6%)であり、目安とされる80%を大きくクリアーしていることから、当院は総合病院併設型がんセンターから、がん専門診療施設に完全に特化したと言えるのではなかろうか。

診療科別入院患者悪性疾患比率 (表5)

悪性疾患患者延数はほとんどの診療科で前年より増加していたが、特に放射線科(+29.3%)の

増加が目立った。入院患者延数ベースでの悪性疾患患者比率は82.51%と過去最高であり、整形外科(26.2%)と眼科(0%)を除く全ての科で、その入院患者の70%以上が悪性疾患患者であった。特に小児科・外科・呼吸器外科・放射線科では90%を超えていた。

死亡退院患者数は総数531(前年520)、悪性501(同478)であり、94.4%が悪性患者であった。剖検数は25件(同22)で、剖検率は4.8%であった。

診療科別・在院期間別・性別退院患者数 (表6)**および病類別・在院日数別患者数 (表7)**

性別退院患者総数は男性5,188(前年5,026)、女性6,225(同6,191)と男女ともに増加し、男性45.5%(同44.8%)、女性54.5%(同55.2%)であった。当院では、外科の乳がん患者で化学療法のための短期繰り返し入院が多いため、退院患者延数でみると女性の比率が高くなっている。外科と婦人科以外の診療科ではむしろ男性患者の比率のほうが高い。

180日以上長期入院患者数は前年の16例から8例と半減し、平均在院日数は前年の15.0日から14.7日にさらに短縮していた。特に悪性疾患患者の平均在院日数は14.8日(前年15.3日)で、良性の14.1日(前年13.8日)との差がほとんどなくなってきている。これも乳がんに限らず、短期間の繰り返し化学療法のための入院患者が多くなってきているためと考えられる。

2006年の追跡調査

2006年の2,615名を加え、45年間の登録患者総数は55,429名に達し、登録後20年未満の追跡調査対象患者数は36,366名となった。当院の院内がん登録は登録患者数の豊富さとともに、登録後20年間毎年全患者の追跡調査を施行し、ほぼ100%の予後把握率を保っていることが、全国的に大きく評価されている。

予後調査の手順は、まず新潟県地域がん登録や患者会などからの死亡患者情報を収集する。次に残った生死不明患者の外来受診歴を調べ、1年以上受診

歴の無い患者を対象には郵送による直接照会を実施する。これにより例年70%~80%の回答が得られる。残りの生死不明患者には最終的に市町村への照会を行なうことになるが、昨年からは現住所への住民票照会を省略し、本籍地への戸籍照会に一本化している。これは手順の簡便化を図った意味もあるが、法務局の許可に基づかない住民票照会に対しては、市町村の協力が得られないケースが増加してきていることも大きな理由である。地域がん登録とは異なり、法的根拠に乏しい院内がん登録に関しては、行政の

協力がますます得られなくなっているのが現状であり、院内がん登録を支援する法的整備が強く望まれる。

今年のがん診療拠点病院の標準項目に則った2005年症例の国立がんセンターへの報告業務など、院内がん登録業務量の増加や、電子カルテへの病歴室業務全般の対応などのため、予後追跡調査作業が前年より2ヶ月程度遅れて進行中であるが、最終的には例年通りほぼ100%の予後把握を実施予定である。

表1 2006年の悪性疾患入院患者の基礎資料

1. 2006年初回悪性疾患登録患者数 (実数)	2,615
2. 2006年の悪性疾患登録疾患数	2,895
内訳：本年初登録で単疾患	2,527例, 2,527疾患
本年初登録で複数疾患	88例, 182疾患
既登録で本年初発疾患	184例, 186疾患
3. 2006年の悪性疾患入院患者実数	4,081
05年以前の登録患者も含む	
4. 2006年の入院加療悪性疾患患者延数	9,417
同一年の再入院も含む	
5. 2006年の総入院患者実数	5,629
6. 2006年の総入院患者延数	11,413

表2 悪性新生物疾患別数の推移 (実数)

部位等 (I C D 10)	2004 年	2005 年	2006 年
口唇、口腔および咽頭の悪性新生物 (C00 ~ C14)	72 (44)	66 (37)	62 (47)
食道の悪性新生物 (C15)	185 (143)	169 (110)	177 (127)
胃の悪性新生物 (C16)	447 (372)	507 (432)	572 (473)
小腸の悪性新生物 (C17)	6 (5)	12 (10)	7 (8)
結腸の悪性新生物 (C18)	217 (181)	215 (178)	257 (209)
直腸、直腸S状結腸移行部および肛門の悪性新生物 (C19 ~ C21)	123 (97)	141 (108)	144 (115)
肝および肝内胆管の悪性新生物 (C22)	75 (34)	84 (57)	71 (47)
胆嚢および肝外胆管の悪性新生物 (C23,C24)	52 (35)	43 (32)	32 (22)
膵の悪性新生物 (C25)	79 (58)	84 (58)	88 (60)
その他消化器および腹膜の悪性新生物 (C26,C48,C45.1)	5 (3)	8 (4)	7 (6)
喉頭の悪性新生物 (C32)	47 (28)	52 (40)	44 (34)
気管、気管支および肺の悪性新生物 (C33,C34)	601 (409)	596 (406)	636 (405)
その他呼吸系および胸腔内臓器の悪性新生物 (C30,C31,C37 ~ C39,C45.0,C45.2)	23 (16)	16 (10)	16 (11)
骨および関節軟骨の悪性新生物 (C40,C41)	9 (3)	13 (9)	18 (9)
皮膚の悪性新生物 (C43,C44,C46)	90 (79)	70 (57)	75 (62)
乳房の悪性新生物 (C50)	525 (358)	509 (326)	536 (327)
結合組織およびその他の軟部組織の悪性新生物 (C47,C49)	15 (7)	23 (18)	28 (21)
子宮頸の悪性新生物 (C53)	118 (96)	78 (57)	90 (66)
その他子宮の悪性新生物 (C54,C55)	74 (57)	75 (54)	95 (70)
その他女性生殖器の悪性新生物 (C51,C52,C56 ~ C58)	98 (54)	108 (59)	88 (44)
前立腺の悪性新生物 (C61)	253 (227)	244 (206)	217 (193)
膀胱の悪性新生物 (C67)	158 (87)	152 (76)	185 (110)
腎および腎盂の悪性新生物 (C64,C65)	95 (74)	90 (68)	80 (54)
その他の泌尿生殖器の悪性新生物 (C60,C62,C63,C66,C68)	40 (30)	46 (32)	52 (37)
脳の悪性新生物 (C71)	5 (1)	6 (5)	6 (5)
その他および部位不明の悪性新生物 (C69,C70,C72 ~ C80)	136 (110)	137 (90)	135 (99)
再掲 [甲状腺 (C73)]	90 (76)	83 (61)	86 (67)
白血病 (C91 ~ C95)	106 (58)	103 (49)	101 (42)
その他のリンパ組織および造血組織の悪性新生物 (C81 ~ C85,C88,C90,C96)	194 (105)	179 (95)	168 (100)
上皮内癌 (D00 ~ D09)	75 (75)	92 (97)	94 (92)
計	3,923 (2,846)	3,918 (2,780)	4081 (2,895)

() 悪性疾患登録数

表3 悪性疾患入院患者実数の年間推移 (実数および比率)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
悪性疾患入院患者実数	2,918	2,843	3,138	3,561	3,923	3,918	4,081
悪性比率 (%)	54.82	55.18	58.51	62.30	66.30	66.47	68.30
疾患別患者実数	5,323	5,152	5,363	5,716	5,917	5,894	5,975

表4 悪性疾患入院患者延数の年間推移 (延数および比率)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
悪性疾患入院患者延数	5,400	5,374	6,845	8,293	9,445	9,124	9,417
悪性比率 (%)	67.75	68.34	74.17	78.28	81.56	81.34	82.51
総入院患者延数	7,970	7,864	9,229	10,594	11,581	11,217	11,413

表5 診療科別入院患者悪性疾患比 (延べ数, 重複あり, 死亡・剖検は実数)

診療科	悪性疾患患者 (%)	入院患者数	死亡数		剖検数	
			悪性	総数	悪性	総数
内科	2,401 (81.4)	2,949	258	281	17	19
神経内科	0 (0.0)	41	0	4	0	0
小児科	385 (91.0)	423	4	4	4	4
耳鼻咽喉科	192 (75.9)	253	16	16	0	0
外科	3,710 (94.7)	3,917	113	115	0	0
呼吸器外科	425 (92.6)	459	26	26	0	0
整形外科	101 (26.2)	385	4	4	0	0
心臓血管外科	0 (0.0)	1	0	0	0	0
脳神経外科	110 (73.8)	149	5	6	0	0
麻酔科	0 (-)	0	0	0	0	0
眼科	0 (0.0)	114	0	0	0	0
皮膚科	134 (89.9)	149	6	6	0	0
泌尿器科	725 (73.4)	988	42	42	2	2
婦人科	913 (76.0)	1,201	16	16	0	0
産科	0 (0.0)	58	0	0	0	0
放射線科	321 (98.5)	326	11	11	0	0
合計	9,417 (82.5)	11,413	501	531	23	25

表6 診療科別・在院期間別・性別 退院患者数

科別	在院期間別 性別	総数	1-7日	8-14日	15-30日	31-90日	91-180日	180日以上	平均在院日数
			男	女	男	女	男	女	
総数	男	5,188	1,657	1,331	1,400	727	70	3	18
	女	6,225	3,456	1,288	963	480	33	5	12
内科	男	1,994	568	534	572	290	30	0	19
	女	955	260	255	291	139	8	2	19
神経内科	男	20	3	3	8	5	0	1	37
	女	21	8	3	4	6	0	0	21
小児科	男	266	122	17	64	51	12	0	22
	女	157	88	20	25	19	5	0	17
耳鼻咽喉科	男	165	33	37	30	62	3	0	31
	女	88	5	51	20	11	1	0	20
外科	男	1,006	282	323	312	82	6	1	15
	女	2,911	2,291	348	198	72	2	0	6
呼吸器外科	男	281	31	48	169	32	1	0	19
	女	178	10	44	117	6	0	1	25
整形外科	男	182	23	43	60	47	8	1	30
	女	203	17	46	64	69	6	1	31
心臓血管外科	男	1	1	0	0	0	0	0	6
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	男	75	7	27	29	12	0	0	20
	女	74	9	12	38	13	2	0	25
麻酔科	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	男	43	25	13	5	0	0	0	9
	女	71	33	33	5	0	0	0	8
皮膚科	男	76	23	39	10	4	0	0	12
	女	73	24	30	10	9	0	0	14
泌尿器科	男	843	494	188	102	50	9	0	11
	女	145	46	47	23	28	1	0	20
婦人科	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1,201	618	353	147	74	8	1	12
産科	男	8	6	1	1	0	0	0	5
	女	50	27	23	0	0	0	0	7
放射線科	男	228	39	58	38	92	1	0	27
	女	98	20	23	21	34	0	0	23

表7 2006年病類別（大分類）在院日数別患者数

疾病大分類	在院日数	計	1～7日	～14日	～30日	～90日	～180日	～181日以上	平均在院日数
合計		11,413	5,113	2,619	2,363	1,207	103	8	14.7 (167,523)
I 感染症および寄生虫症		42	6	16	18	1	1	0	17.3 (727)
II 新生物		9,755	4,378	2,149	2,074	1,059	90	5	14.7 (143,377)
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害		40	11	9	7	12	1	0	23.7 (946)
IV 内分泌、栄養および代謝疾患		26	4	12	7	2	1	0	19.5 (508)
V 精神および行動の障害		8	5	3	0	0	0	0	7.1 (57)
VI 神経系の疾患		24	6	11	4	3	0	0	14.5 (349)
VII 眼および付属器の疾患		114	58	46	10	0	0	0	8.4 (952)
VIII 耳および乳様突起の疾患		1	1	0	0	0	0	0	4.0 (4)
IX 循環器系の疾患		213	92	52	45	23	1	0	14.8 (3,162)
X 呼吸器系の疾患		151	52	46	34	16	1	2	26.7 (4,036)
XI 消化器系の疾患		276	74	117	67	16	1	1	14.4 (3,962)
XII 皮膚および皮下組織の疾患		27	6	11	8	2	0	0	14.4 (388)
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患		123	11	19	44	47	2	0	29.7 (3,658)
XIV 尿路性器系の疾患		366	287	66	10	3	0	0	5.1 (1,860)
XV 妊娠、分娩および産じょく<褥>		43	22	21	0	0	0	0	7.9 (338)
XVI 周産期に発生した病態		16	13	2	1	0	0	0	4.5 (72)
XVII 先天奇形、変形および染色体異常		5	1	2	1	1	0	0	16.6 (83)
XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		60	37	13	8	1	1	0	10.0 (601)
XIX 損傷、中毒およびその他の外因の影響		100	27	23	25	21	4	0	23.4 (2,339)
XX 傷病および死亡の外因		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用		23	22	1	0	0	0	0	4.5 (104)
XXII 特殊目的用コード		0	0	0	0	0	0	0	0.0 (0)

() 延日数

良性平均在院日数 14.1 (総日数 28,062)

悪性平均在院日数 14.8 (総日数 139,461)